

地域おこし協力隊とは、

条件不利地域等の地方公共団体が都市地域から地域の活性化に意欲のある人材を「地域おこし協力隊」として受け入れ、地域課題の克服と共に本人の定住化を図ろうというものです。

【問合せ先】 いすみ市地域おこし協力隊 大原庁舎（2階） 企画政策課内 ☎62-1382

自然と共生する里～健やかな食と農を次世代へ

いすみの米が美味しくって、体重増加が止まらない地域おこし協力隊の加賀美です。

当初、観光・環境保全事業のお手伝いから始まった活動は、地域の皆様のご指導のおかげで、コミュニティ交流事業や子どもたちの自然学習や食育の支援、農作物の未利用品を活用した加工品の開発、加工用作物の栽培へと活動の場が広がりました。今年度からは農業ヘシフトし「つくる」技術をしっかりと身に付けていきたいと思えます。

●学校給食をオーガニックに

私がいすみ市に移住して、いちばん驚いたことは、学校給食の米飯を全量有機米で提供していることでした。美味しく安全ないすみの米をもりもり食べている子どもたちを想像し「やるな！いすみ市」と気持ちが高揚しました。

この取組は、全国的にも注目・評価されています。昨年度の農林水産省「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」では、いすみ市の有機米生産団体の皆様が農林水産大臣賞を受賞されました。

そして、昨年からは米だけでなく有機野菜も学校給食に一部採用されています。次世代を担う子どもたちのために生産者の方々が奮起され、市もバックアップし、その輪が広がっています。

私が農作業のお手伝いに通っている松丸のSS農園さんがこのプロジェクトに参加されているご縁で、今年から私も自然と共生する里づくり連絡協議会の有機野菜部会、いすみ有機農業クラブの皆様にも有機農業のいろはをご指導いただいています。

只今、学校給食用ネギとニンジン栽培にチャレンジ中です。

●「いすみ食と農をつなぐ会」結成！

令和元年6月に「タネと食の未来を考える勉強会」を主催した市民グループと参加者有志で立ち上げた団体です。地域に安心安全な食品が循環するよう農産物の生産者や加工・流通の担い手が連携し、次世代に健やかな食と未来をつなぐことを目的に活動しています。まなぶ、つくる、たべる、つなぐなど、参加の仕方は自由です。メンバーは会の目的に沿う提案を行い賛同者がサポートする、そんなスタイルで活動しています。

今後は、いすみ市も登場する注目の食育映画「いただきます ここは、発酵の楽園」の自主上映会や菌ちゃん先生で知られる吉田俊道先生をお招きしての講演会の開催も予定しております。



▲松丸に看板が立ちました！
土づくりから頑張ってます

●コミュニティファーム「いすみ畑」

休耕地を利用して、農薬を使わずに麦・大豆を栽培しています。人手がいる作業は、メンバー同士でサポートしあっています。

これは、主要作物の地域自給力アップを目指すいすみ食と農をつなぐ会の活動です。

榎沢の第1号農園では、大豆を育てて味噌づくりをするワークショップを通じ農体験と食育を楽しむ「畑 to 味噌」を開催する予定です。

●小さなタネの大きな問題

いのちの糧となる作物を生むタネですが、今、日本のタネと食と農が大きな問題に直面していることをご存知でしょうか。

全国各地の自治体では、地域の農業や生産者の権利、食の安全を守るための条例化に動き出しているところもあります。

有識者の中でも判断がわかる遺伝子組み換えやゲノム編集のことも、皆様とともに学ぶ機会を設けていきたいと考えています。

